

平成22年度内閣府本府予算執行計画の進捗状況について

資料1

内閣府本府予算監視・効率化チーム



・「予算執行計画」を策定し、それに基づき各種取組を実施

チームリーダー：大島副大臣、サブリーダー：泉大臣政務官

平成22年度内閣府本府予算執行計画の進捗状況

- | | |
|---|--|
| <p>① <u>予算監視・効率化チームの定例会合の実施</u>
→ 第1回(4/27)、第2回(8/25)</p> <p>② <u>予算執行計画の策定</u>
→ 4/27策定、4/30公表</p> <p>③ <u>支出負担行為又は支出に関する計画の策定と進捗管理</u>
→ 「補助金等」「庁費」「旅費」「調査費」を対象に計画を立案</p> <p>④ <u>予算執行上の重要な決定等についての事前審査の実施</u>
→ 対象事業について引き続き検討</p> | <p>⑤ <u>「行政事業レビュー」の実施</u>
→ 160事業を対象に実施、公開プロセスは6/3、4に実施</p> <p>⑥ <u>国民の声の受付・対応</u>
→ 7月から運用開始</p> <p>⑦ <u>予算執行の効率化等に向けた職員参画向上等の取組</u>
→ 会計実務研修の実施(5/25、26)、意見聴取を準備中</p> <p>⑧ <u>予算執行の情報開示の充実</u>
→ HPの改善を検討中</p> |
|---|--|

これまでの進捗状況について頂いた外部有識者の主なコメント

今後は、問題点として挙げられた事柄について、スケジュール管理を行いながら検討を行ない、ケース・バイ・ケースで「緩和曲線」が必要なこともあろうが、速やかに実行に移すことが肝要。については、その鍵を握るのは職員自身の意識・モチベーションであり、本施策を進めることについて職員へのインセンティブの付与を併行的に展開していくことが必要と思う。(石堂先生)

今般の予算監視・効率化チームの取組みは国民への説明責任の観点から重要と考えています。課題としては、政治主導の徹底、政策評価との連携、共通課題の洗い出しなどが重要です。(南島先生)

行政事業レビューについて、内閣府そのものの役割、政府(各府省・内閣)内における役割について考えさせられる事柄が多かった。ただし、内閣府側の説明ぶりの巧拙によって、必要な事業でも説明が稚拙な場合にはマイナス評価、説明が巧みであれば必要以上の良い評価が下される可能性がある。(山谷先生)